

編輯室の内外

昭和三年の新春を迎へた、たしか明治維新は戊辰の歳だったと記憶する、冥土の旅の一里塚だ、なんて洒落てゐるまでない。人生行路の新一里塚だ、明治元年の戊辰は帝國改造の時だったし、同四十一年の戊申には長くも明治大帝 所謂戊申詔書を發し給ひ國民の浮華を誡め自強以て國威の發揚を諭し給ふたのを思ひ合せ、正に此歳は行き惱んでゐる財界やら、不合理な社會制度を樹て直すべく運命附けられた歳だ。此を完全に爲と遂げてこそ昭和の御代に生を享けた甲斐があるのだ。國民に此確信があるか知ら。

舊臘終結した地方議會の成績を見るに、道路改良費の繼續豫算を定めたのが随分多い、流石政府の積極的獎勵策に基因するものと感心する。コゝして我が路政が強調されること、夫れが亦地方産業の隆盛を期することになると思へば、昭和三年こそ、吾等は頭に鉢巻して活動すべきときだ。

しかし、ケチな府縣もないではない、政

編輯室の内外

府の産業道路費豫算でも議會が解散になれば、地方豫算は財源を失つて駄目になることを考へて、議會の雲行きを觀てからそつ／＼豫算を編制しようとしてゐる地方もある。マゝ日和見府縣には強て道路を改良して貰はなくとも可い。政府の豫算を消化するだけの改良工事を一府縣だけで執行する向もある。マゝ其の方に補助を出して貰つて呑氣な府縣は見捨てること、したい。

左様な府縣に限つて路線追加認定しようとしてゐる。認定するのは何の爲であるかを考へるが可い。地方黨勢擴張の種を蒔くのではない、眞に道路改善の實を結ばさむとするに在るのだ認定ばかりが能てはない。鐵道と道路、殊に自動車との競争防止の問題も、随分古いものであるが、頑迷な鐵道關係者も漸く目醒めたものか、鐵道軌道の敷設の可否を判断するには、必ず既存道路の改良計畫や其の上に於ける自動車營業を斟酌して措置する必要があると、新業者の集會で決定したとやら、今更麼那ことを言つてる時機でないが、マゝ此處まで醒めて來たのは結構だ、乗合自動車の主管問題

も此調子で漕ぎつけてほしい。

新年勿々景氣の良い話ばかりでも無い、前途に一つの難關がある、夫れは道路改良費財源としての起債の問題だ、何でも大藏省邊では、大正十二年以來道路の起債を認めたとはいないので、今更起債は許せないと云つてをうたう。河川や港灣の起債は認めるが道路だけは認めないといふ理由を聽きたいものぢや。河川工事は公害除却であるから起債で起工しても可いなんて、一世紀前の頭では話にならぬ。是等財務當局の頭から改造して起債政策可なりと教へなければならぬ、併し財務當局に言つて置きたいことは、現内閣組織の當初、産業を助長する土木事業の爲には起債政策を採るこそ首相が言聲したことを忘れてはならぬ事だ。

本號定價 五拾錢
一ヶ年分 金六圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内
發行所 社團 道路改良會
發行兼 上 田 陸 造
編輯者 東京市小石川區久堅町一〇八
印刷所 共同印刷株式會社
印刷者 君 島 潔